

June 3, 2019

【前日の為替概況】ドル円、米国とメキシコ、中国との貿易摩擦懸念で 108.28 円まで下落

31日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに反落。終値は108.29円と前営業日NY終値(109.62円)と比べて1円33銭程度のドル安水準。トランプ米大統領は、メキシコが不法移民対策を講じなければ、同国からの輸入品全てに制裁関税を課すと表明。6月10日に5%の税率を適用した後、段階的に引き上げて10月1日には最大25%とする。中国は6月1日、米国の対中制裁関税拡大に対する報復として、600億ドル相当の米国製品に課している追加関税を最大25%に引き上げた。

米国発の貿易摩擦拡大が世界経済に悪影響を与えるとの懸念が広がり、ダウ平均は360ドル超下落、米10年債利回りも2.1246%前後まで低下したことで、円買い・ドル売りが優勢となり108.28円まで下落。

4月米個人消費支出(PCE)や5月米シカゴ購買部協会景気指数は予想を上回った一方、5月米消費者態度指数(ミシガン大調べ)確報値は予想を下回るなど、強弱入り混じる結果となった。

ユーロドルは上昇。終値は1.1169ドルと前営業日NY終値(1.1129ドル)と比べて0.0040ドル程度のユーロ高水準。米国と中国・メキシコとの貿易摩擦が激化し、世界的に景気が減速するとの懸念から米国株下落と米金利低下、ドル安が進み1.1180ドルまで上昇。独10年債利回りが▲0.213%前後と過去最低を付け、月末のロンドン・フィキシングに絡んだユーロ売りで1.1137ドル付近まで反落した。

ユーロ円は下落。終値は120.96円と前営業日NY終値(122.00円)と比べて1円04銭程度のユーロ安水準。米国株の大幅下落でリスク回避目的の円買い・ユーロ売りが入り、月末のロンドン・フィキシングに絡んだユーロ売りで120.92円まで下落した。

メキシコペソは大幅安。トランプ米大統領の対メキシコ関税表明を受けて、通貨ペソを売る動きが広がった。ペソは対ドルで19.8279ペソ、対円で5.48円までペソ安に推移した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、米中貿易戦争への警戒感から続落か

本日の東京市場のドル円は、米中貿易戦争への警戒感による世界的な株安、米10年債利回りの低下を受けて続落が予想される。

ドル円のテクニカル分析では、ダブル・トップ(112.14円・112.40円)を形成後、200日移動平均線を下抜けて「三役逆転」の売りの時代となり、窓(111.07円・110.96円)を空けて、ネック・ライン109.71円を下回り、最小目標値107.02円(109.71円- (112.40円-109.71円))を目指す下落トレンドを形成している。現状は、1月3日のフラッシュクラッシュ時安値104.87円から4月24日高値112.40円までの上昇幅の半値押し108.64円を下回っており、次は61.8%押し107.75円を目指す展開が予想される。

米国が5月10日に対中制裁関税第3弾(2000億ドル・25%)を発動し、中国も6月1日から報復関税第3弾(600億ドル・25%)を発動したことで、6月28-29日の大阪サミットでの米中首脳会談に向けて、米中貿易戦争へのカウントダウンが始まった。

トランプ米政権は、対中制裁関税第4弾(3000億ドル・25%)の手続きを始めており、6月17日に公聴会、1週間後の24日に締め切り、米中首脳会談の結果次第では、第4弾が発動され、総額で5500億ドルの制裁関税が発動されることになる。

中国は、制裁関税は1100億ドルとなり、対米輸入をほぼカバーしていることで、米国が中国から約80%輸入に依存し、制裁関税から除外しているレアアース(希土類)の対米輸出規制を警告している。

【米国】**【中国】**

第1弾(2018年7月16日)	340億ドル	340億ドル
第2弾(2018年8月23日)	160億ドル	160億ドル
第3弾(2018年9月24日)	2000億ドル(5月10日)	600億ドル(6月1日)
第4弾	3000億ドル	

米中貿易戦争への警戒感から米国経済が減速する可能性が高まりつつあることで、10年債利回りが、FF金利誘導目標(2.25-2.50%)の下限を下回る2.12%台まで低下しており、2回の利下げを織り込みつつある。さらに、3カ月物財務省短期証券金利との逆イールド現象は、リセッションの前兆とみなされることから、トランプ米政権によるFRBへの利下げ圧力が強まる可能性も、ドルの上値を抑える要因となる。

日米通商協議に関しては、7月の参議院選挙後に決着が先送りされたものの、ロス米商務長官による「為替相殺関税」やムニューシン財務長官による「為替条項」への警告が、ドル円の上値を抑える要因となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 1-3月期の法人企業統計調査（法人季報、ソフトウェアを含む設備投資額、予想：前年比2.6%）

<海外>

- 10:45 ◎ デイリー米サンフランシスコ連銀総裁、シンガポールで講演
○10:45 ◎ 5月Caixin中国製造業購買担当者景気指数（PMI、予想：50.0）
○15:30 ◎ 5月スイス消費者物価指数（CPI、予想：前月比0.3%）
○16:00 ◇ 5月トルコ製造業PMI
○16:00 ◎ 5月トルコCPI（予想：前月比1.30%/前年比19.10%）
○16:30 ◇ 5月スイスSVME購買部協会景気指数（予想：48.8）
○16:50 ◎ 5月仏製造業PMI改定値（予想：50.6）
○16:55 ◎ 5月独製造業PMI改定値（予想：44.3）
○17:00 ◎ 5月ユーロ圏製造業PMI改定値（予想：47.7）
○17:30 ◎ 5月英製造業PMI（予想：52.0）
○22:10 ◎ クオールズ米連邦準備理事会（FRB）副議長、講演
○22:45 ◎ 5月米製造業PMI改定値（予想：50.6）
○23:00 ☆ 5月米ISM製造業景気指数（予想：53.0）
○23:00 ◇ 4月米建設支出（予想：前月比0.3%）
○4日 01:40 ◎ バーキン米リッチモンド連銀総裁、講演
○4日 02:25 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、講演
○4日 03:00 ◎ 5月ブラジル貿易収支
○トランプ米大統領、欧州訪問（6日まで）
○ニュージーランド（女王誕生日）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

31日 06:37 ペンス米副大統領

「米国の南側国境は中米からの移民者で危機的状況」
「トランプ米大統領はメキシコと議会に国境について、より行動をするように要請することを決定した」

31日 08:36 トランプ米大統領

「6月10日からメキシコからの輸入品全てに5%の関税をかける」
「メキシコへの関税は不法移民の流入が止まるまで実施」
「メキシコへの関税は7月1日から5%以上への引き上げを開始し、10月1日に25%に達するまで継続する」
「企業は関税を避けるためにメキシコから撤退することをはじめよう」

31日 09:51 麻生財務相

「為替報告書に関して、ムニューシン米財務長官と協議の予定はない」

31日 16:13 茂木経済財政相

「米中貿易摩擦は激しさを増している」
「米中貿易摩擦は日本の輸出・生産活動などに影響」

31日 20:25 劉鶴中国副首相

「米国との貿易戦争における影響は制御可能」

31日 21:13 ロペス・オブラドール・メキシコ大統領

「米国とは友好的な関係を築いている」
「慎重な対応を行なう」
「目には目を歯には歯とはならない」
「メキシコの移民政策、米国との通商問題で変えることはない」
「通商交渉の行方を見守りたい」

31日 21:53 カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁

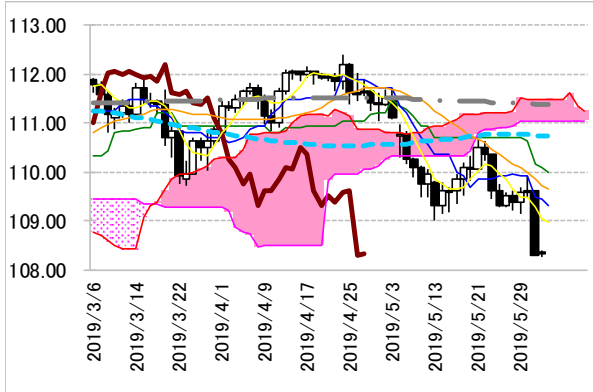
「金融政策を変更する理由は見当たらない」
「インフレ予測は1.7%付近で停滞」
「メキシコへの関税は米経済にとって痛手となるかもしれない」

31日 23:13 プラート ECB 理事

「保護主義のスパイラルは大災害になる」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

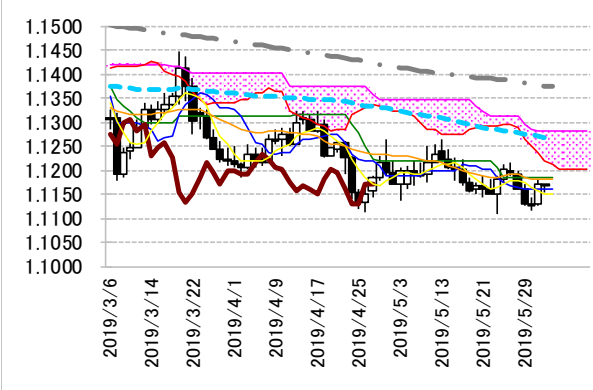


<ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

大陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。ダブルトップ（112.14円・112.40円）形成後の窓（111.07円・110.96円）明け、目標値107.02円を目指す下落トレンドを形成中。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	109.45(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	108.29
サポート1	107.77(1/10安値)
サポート2	107.52(1/4安値)

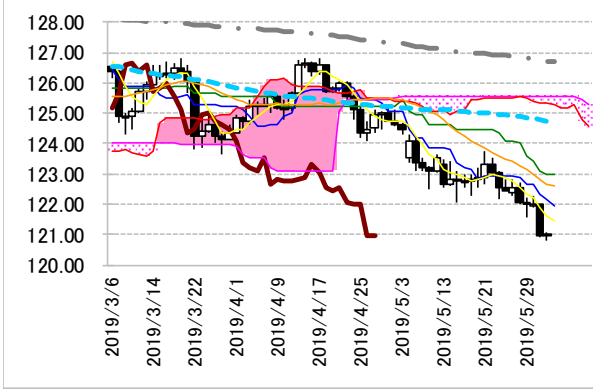


<ユーロドル＝5/30安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。4手連続陰線で下落トレンドを形成していたものの、底値圏での抱き線、三川明けの明星で反発の可能性が示唆されている。

本日は、5月30日安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1220(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	1.1169
サポート1	1.1116(5/30安値)

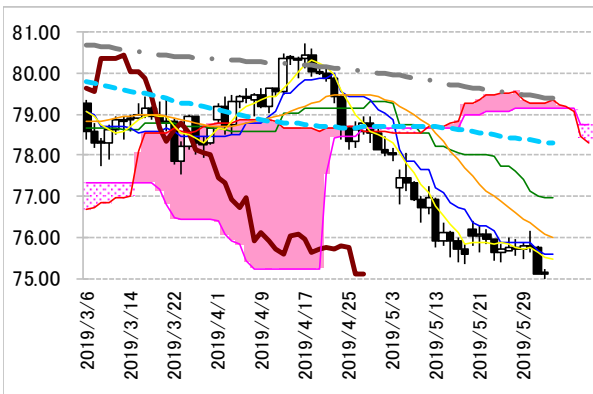


<ユーロ円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。

本日は、一目・転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	122.15(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	120.96
サポート1	120.20(ピボット・サポート2)



<豪ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。

本日は、一目・転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	75.60(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	75.12
サポート1	74.63(ピボット・サポート2)

